

# 大阪真空工業株式会社



装飾性も高い化粧品容器へのコート

## アンダーからトップコートまで

真空蒸着やスパッタリング、ケミカルコーティング等、多彩な表面処理に取り組み大阪真空工業は、アンダーコートからトップコートまで一貫して自社で塗装ができる数少ない企業だ。

「真空釜を持っていても塗装ラインを持たないと、メッキだけをやる会社は多いが、当社はすべての工程ラインを自社工場に備え、顧客のニーズに応えることができます」と語る木下稔継営業部長。

## 表面処理技術の 新たな価値を創造



同社の技術は、単なる塗装にとどまらず高い機能性を誇る。たとえば英国企業との共同開発で生まれたMOSTコーティングは、摩擦係数0.02〜0.06と低い数値を持つ。金型摺動部品や機械部品へのコーティングで耐摩耗性を向上させることが可能だ。

## 機能と装飾性を兼ね備えた 表情豊かな塗装技術

同社の取引先は約60社、その多くを化粧品や弱電、光学関係のメーカーが占める。いずれも品質管理には厳しい業界だが、高い信頼を得ている同社は関西では競合するところがないほどの強いシェアを誇る。特に化粧品の容器は中の商品を守るという機能のほかに装飾性も求められる。同社の真空蒸着技術は、中身を保護する耐薬品性、紫外線カット等の機能性だけでなく、蒸着物質を変えることで様々な表情を作り出すこ

とができるため、顧客から高い評価を得ているのだ。

「最近の化粧品業界には従来の化粧品メーカーに加えて、製薬会社や食品会社まで参入していますが、そこで勝ち抜くためには機能性プラスチックで装飾性を持つことが求められます。当社では塗料を自社でブレンドし、ほかにはないボトルに仕上げています」と木下部長は語る。

1個10万円もする化粧品もあるが、それに見合うだけの装飾性を提供できるのも、同社ならではの技術力があるからだ。

## 光触媒にDLC、 多岐にわたるコーティング法

日本国内で真空蒸着を始めたさきがけ的な存在の同社だが、そのきっかけは安達直祐社長の疑問から始まった。海外でプラスチックにコーティングされた製品を見た安達社長は、「何だろう?」と疑問を持ち、小さな真空装置を購入して自社で開発を始めたのだ。当初は扇風機の中心部の表面塗装に取り組み、大ヒットとなった。「不思議を追求するのが好きだから」と笑う安達社長だが、開発はそんな小さな疑問の追求から始まるのだろう。

現在では塗料にチタンを入れることで光輝性を出す光触媒コーティングや水中での使用にも耐摩耗性を発揮するDLCコーティング（硬質カーボンと金属を積層した処理）等、それぞれの機能を高める新しい方法を考案している。だが同社は決して機能一辺倒ではない。

「ものづくりはハードとソフトが融合しないとイケない。機能だけではなく、美観や文化、思想等を盛り込まないといいものではないのです」と語る安達社長の言葉には、深みがある。まさにこだわりのものづくりを進めているのだ。

### 主な事業内容

各種コーティング加工、真空蒸着加工、イオンプレATING加工、スパッタリング加工、UVハードコーティング加工、樹脂メッキ加工、金型製作・成形加工等



安達 直祐さん  
代表取締役



木下 稔継さん  
営業部長

大阪真空工業株式会社

Company Profile

住所 / 〒547-0001  
大阪府大阪市平野区加美北4-6-50  
創業 / 昭和28年7月  
設立 / 昭和33年3月  
資本金 / 1,000万円  
従業員 / 100名 (平成21年1月現在)  
TEL / 06-6791-3035  
FAX / 06-6791-3010

関西  
19

<http://www.osaka-vacuum.com/>